

# 一人ひとりの患者さんに寄り添う 義肢装具づくり

義肢とは、失った手足の代わりになる義手や義足のこと、麻痺や機能低下を補完する目的で付けるものが装具です。実は義肢装具を作るだけなら誰でもできます。大石義肢製作所のこだわりは、製作者が自ら義肢装具士の国家資格を取得していること。資格を持つことで、医師の指示により患者さんに触れることができるようになるからです。患部の型を取る採型から完成した義肢を患者さんにフィットさせる適合まで、一人ひとりの患者さんに寄り添う一貫した義肢装具作りができるのです。

難しいのは患者さんへの寄り添い方。何よりも患者さんと対等に向き合います。手足を失った患者さんには厳しいですが、義肢装具には限界があるので「これで大丈夫」とは言わない。でも大石さんが「一生懸命がんばって作っている」ことが伝わると、患者さんは心を開いてくれるそうです。患者さんとの信頼関係を築くことも、義肢装具士の大切な仕事です。

## 大石義肢製作所

代表者 大石 芳子  
所在地 世田谷区深沢5-5-2  
設立 昭和36年(1961年)  
主な事業 義肢・装具の製造・販売  
連絡先 ☎03-3702-4061



足の型は石膏で作って、オーブンで乾燥

どこにどんな力がかかるかを考えながら作る



## ここがすごい!! 経験がものを言うオーダーメイド

例えば、義足なら患者さんの足にギブスを巻いて型を採りますが、柔らかい身体は立っているとき、座っているとき、歩いているときで形が変わります。この変化に合わせてその患者さんに最適な形状に型を修正するのは経験を積んでこそできること。義肢装具士の学校で講師もしている大石さんでさえ、この技術は言葉では伝えることができないと言います。

患者さんは一人として同じ症状の人はいないので義肢装具はすべてオーダーメイドです。しかも紙一枚の寸法の差で装着感が大きく変わってしまうほどデリケートな仕事です。大石さんは、患者さんを前にして毎日考えることの連続だそうです。



患者さんの身体と義足をつなげるソケット



筋金を体の形に合わせて曲げる作業。患者さんから取ったトレースを元に作る

## VOICE 「なぜ?」「どうしたらいい?」 を考えて欲しい

何か課題を与えられたときに、やり遂げただけで満足していませんか。実はその先の、どうやったらもっときれいに、うまく、速くできるかを考えることが大事です。これは社会全般に通じること。なぜだろう、どうしようと、とにかく一生懸命考えることで、自分のまわりの問題を解決できるのです。



義肢装具士 大石暁一さん